

令和七年三大行初行 禊 大 行



綾里白浜立石神社堂内

大和の光

6月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代) 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋
八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

教主様随想記 大和神随らの道(四)

毎年の管長先生のお護摩の火の素
晴らしさに、私もこのような火を焚
いてみたいとの思いが強くなり、あ
る年に管長先生より自室にお招き頂
き、実に小さな茶碗にてお茶を出さ
れた。始めて冷茶というものを頂い
た。

その折に、私の思いをお伝えさせ
て頂いた。「私のような他宗教の者
に、護摩を焚く修行をさせて頂ける
のでしょうか」と、お尋ねお願い申
し上げた。

即答はなくしばらくして「考えて
みましょう」との言葉を賜った。そ
の後、三年、「保積先生、そろそろ
やりますか」と、誠に有り難き言葉
を賜った。

毎年の参拝の折りに、柳澤先生よ
り、九字の作法とかの指導を頂いた。
管長先生よりは、お経を唱えられね
ば行になりませんからと経本とテー
プを頂いた。管長先生はこの山で謹
行はできませんので、このテープを
聞いて憶えて下さいと。

その一年後にそれでは始めましよ
うと。平成元年五月八日より十八日
迄の十一日間の修行に入ることにな
った。

この如き祈禱を省みれば、神変様
の導きというほかはないものと。

金峯山寺さんでの修行を終えて一
年後ぐらい経て、昭和六十年十二月
七日発行の教祖さまのおことば集・
大和の心の巻末の大和教団年表を重
ねて拝読すると、昭和四十年、五十
八歳のところに、十一月二日、神変

様の御神像が神変社に鎮座す。神変

大神及び随神としての前鬼神・後鬼
神の御神像の製作者は、大阪の二十
八世大谷相模掾隆義氏、中とりもち
は、奈良吉野金峯山寺管長である。
と記載されていた。五条順教先生の
父上であられる五條寛澄先生という
ことを知った。驚きであった。

昭和四十年には、篤信者であった
阿部夫妻が教祖様の御神託を拝して
金峯山寺さんを参詣され、当時の金



敬

峯山寺管長先生とお会いされたを知
るものとなった。

何故、教祖様がご存知なかったの
であろうかともいふかるものでもあ
ったが、私はこういうご縁を全く知
らずに東南院さんに参籠させて頂い
た事になる。

後年、その事象を五條管長先生に
お話しすると、やはり驚かれておら
れた。

改めての神変様のおみちびきを持
したことになる。このこともやはり
奇すしき神業であらうと思わずには
おられない祈禱であった。

また、神変様は教祖様に大市山を

も授け給うべくみちびかれた祈禱を
みるものでもあった。

更に昭和三十五年、教祖様五十三
歳の時、神変大神の御言葉によりて
大和教団本庁より西北二十キロの地
の山を五万坪程授け下された。

その後、五万坪程を更に求めさせ
て頂くことになった。この頃から私
も深く関わりをもたせて頂くようにな
った。

このお山を求める縁を神変大神様
が夢枕に立ちて授け給いし武田明蔵
先生に誘われるまま、このお山を巡
り、境界杭を打ったり、修行仮小屋
を建てたり、山の守り神でもある不
動沢の岩屋とか、大分巡り山を知る
ものとなった。

後にこのお山を巡る行の始めとも
なるのである。

一つひとつの行為が、全て神の図
りであるを知るものである。正に奇
し毘なるかなではある。

このお山は水が無かったのである。
この地の部落に住む人たちは、井戸
は赤水であり、ダルマストープの上
にやかんのをせ、湯冷ましにして飲
んでいたという。

教祖様は神変様が授けた山である
から、水が無いということはないと
して、御神託を仕えた。

「神変様がご降臨、この地の西北方
に水がある。この部落の長老に聞い
てみよ。」と。

武田先生が部落の人にその旨を話
すと、そう云えば家の爺さんがここ
から二里のところに水の出ていると
ころがあると、話していたことがあ
ると。それで部落の人等と行くと沢
のところにチヨロチヨロと水の湧く
ところを見つけたという。

(二面五段へ続く)

大和三位体霊性統魂禊大神行



祈禱殿にて幽頭和合火祥神事執行

一つである。畠山真由美教師先達により第二座の祓禊が修され、参行者は日日の罪汚れを祓い浄め、己が身魂、先祖魂、前世魂を浄め上げた。次に、品川弓教師先達による第三座が厳修された。参行者は大祓詞を只管に奉唱し、罪穢れを祓い浄め、自身の迷いをも振り祓い祈り込んだ。午後よりはマイクロバスにて万象館道場・霊之元國大和祓禊神之宮へと移動し、水行禊が修された。教務総長により祈念がなされ、修祓、鳥船神事、拝神を行い二組に分かれて水行場に

五月十七日から十八日の両日に亘り、三位体霊性統魂禊大神行が神気漲る大國神社、万象館、そして本年は綾里の立石神社においても厳修された。初日午前七時半に参行者は行程の説明を受けた後、祈禱殿において、教務総長による始行奉告之儀を申し修め、記念撮影が行われた。続いて第一座が教務総長先達により執行され、頭幽の参行者、霊神参行者、代参修行者が大前に言上げられ、幽頭和合火祥神事が厳肅に斎行された。



祈禱殿にての記念撮影

教主様を真中に記念写真を撮り、大國神社へ帰山、この日の夕刻は修行者各々が自修清掃行をなし、夕食時には体感談、感謝の心づくりがなされ第一目の行程を修めた。翌二日目は午前四時より御本殿を参拝。早朝の清々しい大市神山の御神気を頂きながら尊い拝神行となった。マイクロバスにて一路大船渡綾里へと移動、道中、先の大船渡大船渡地区の森林、家屋等が消失している箇所も散見され、山火事の恐ろしさを感じさせて頂いた。三時間程をかけて綾里白浜地区、立石神社へと到着すると、神社裏山の樹木が焼け焦げており、すぐ近くまで火の手が迫っていた事が分かった。



祈禱殿にて拝神行を厳修

また、地元別当さんを始め、崇敬者、消防団の皆様が御社を護らんとする御心をもって立石神社への放水作業、延焼防止を為されていたことが伺い知れた。更には立石大神様として開祖様が、消火活動にあたられた皆様に御力をお授け下さったものと感じさせて頂いた次第である。神社の内外にて感謝の清掃奉仕をさせて頂き、神饌献供の後、大先達により祈りの詞が奏上され、拝神行が修められた。樹々の美しい緑、透き通る綺麗な三陸の海の水面にきらめく光、吹き渡る海風などから、災禍より復活しつつある大自然の息吹を感じさせて頂いた。綾里は昭和四年当時より開祖様が命懸けの御修行をとられた聖地である。

三陸地震大津波、東日本大震災大津波、大船渡綾里森林大火と再三の災禍を経て、再びこの地にて拝神行をさせて頂けることの喜び、有難さ感動は言葉に出来ないものでもあった。参行者はこみ上げる熱い思いに涙を流しつつ、今回の参拝、数々のご神慮、ご加護に感謝を申し上げた。大國神社に帰山後、祈禱殿において修了奉告祭が教務総長により執り行われ、各参行者には参行之証が授けられた。修行後参集殿にて直会が行われ、参行者は旬の山菜の天婦羅等の精進料理を有り難く頂戴し、修行の感想を語り合いながらの和やかな直会となった。神々、御霊神と共に尊き修行をなした二日間であり、夫々が尊い御力を賜わりし感謝の御行となった。弥栄祈念を皆で奉称して散会となった。開祖様の尊きお導きを強く感じ得ての此度の感謝の御行であった。

教主様随想記 大和神隨らの道(四)(続)

その水を引いて今は教団の山も十四戸の部落民の家もその水を頂いている。教団の水はアルカリ泉質の鉱泉水となり風呂も温泉となっている。また、山の土地は亜炭層赤土、雑木の山で、針葉樹も広葉樹の木も余り生育しない地層であった。本殿建立後に早くに成長するといふヒマラヤ杉を植えたが、見かけもよくないが成長せずであった。本殿後背地も雑木しかなかったが、何時の間にかほどよい杜となっていた。鳥が運んできた実生が成長しての杜となっていた。



豊かな自然に恵まれた大國神社

更には、開祖様(教祖様)が神上がられし平成十五年三月の翌年に参集殿の裏山に若い草花が可憐な紫の花をつけているのが発見された。その後、山を整備すると一輪の白いかたくりの花が咲いた。何万株に



数万株に一株という希少な白いかたくり

一株という珍しい白いかたくりの花という。信仰者の皆は開祖様の甦りではの声が高まっていた。平成十七年に大國神社山野草公園として一般市民に無料開放し、毎年多くの人に親しまれている。私はこのお山の三大奇蹟と称えている。

このお山は神変様が授け下された宝の山である。百種類の山野草が成育している。これから時を見て、また、何かの宝ものが授かるかもしれないと、かすかな期待を待ち望むものである。出雲大社での一ヶ月の滝行、運命の学修、金峯山寺での修行を終えたその後に、世の中は広い、様々な人がいる。あなたの縁で学ぶところ修行したいところがあれば行つて修行しなさい、と。教団はまだ私が働けるから大丈夫だ、と。教団での修行はもうよい。あなたが更に力をつけることが、将来の教団の為になると私は信じているからと、話された。

令和七年五月二十八日

教主秀胤

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

教主様特別講義

大和教団には大國主大神様より授かった大和拝という特別な作法、そして禊流の作法がございます。息を吸って神様の声を聞きます。そして静かに吐きます。二回目は自分の命を覚えることを意識して行います。形だけでは分らないものです。行禊大行は三大行の始まりです。行なるべしの十六頁を開いて下さい。

行なるべし

人間は如何なることに打ち勝つ勇氣をもて人間はいつも愛される人になれ人間はいつも素直な心をもて人間はいつもじつと耐えうる忍耐をもて人間はいつも言の葉をもって悟し合う力を養え是れ



教主様を真中に参行者達(霊之元國大和神之宮万象館道場)

この言葉は、神様の言葉です。勇気がなく自分のことだけの人が多いのです。我を出し、我慢の出来ない人が増えてきております。自分や家族の祈願は奉仕ではありません。人を導いて一緒に信仰するのが奉仕です。光とは神様のことであり、神様を呼ぶのです。また心はそちここに動くのです。禊行事の服装は全て白と教えています。白はあらゆる色彩、天地万象の色彩を統合した色彩以上の色彩です。全ての色を包含して光明の白色に帰したる至高至上の神の色です。黄金より白光が一番位が高いのです。人がおめでたい時や幽世に行く時の一番の姿です。これを身に付ける時私たちは神の導きのままに、神の国へ参入することが出来ます。高天原への尊き参入です。この拝神禊に書かれた文字は全部で五三言となり五と三で和算すると八となり、弥栄の数です。表面の一五言は和算すると一と五で六。六は六根、この世です。同じく、一二言は三。禊を表わします。裏面は

行なるべし

一度の行一分の祓い

是れ

実行なしたる時

おのが心に光を呼ぶ

おのが体に水を呼ぶ

心は常に祓い清める風となり

是れ

行なるべし

白装束の姿こそ身を清める姿なり

白装束の姿こそ尊い姿なり

白装束こそ強く生き抜く姿なり

是れ

行なるべし

この言葉は、神様の言葉です。勇気がなく自分のことだけの人が多いのです。我を出し、我慢の出来ない人が増えてきております。自分や家族の祈願は奉仕ではありません。人を導いて一緒に信仰するのが奉仕です。光とは神様のことであり、神様を呼ぶのです。また心はそちここに動くのです。禊行事の服装は全て白と教えています。白はあらゆる色彩、天地万象の色彩を統合した色彩以上の色彩です。全ての色を包含して光明の白色に帰したる至高至上の神の色です。黄金より白光が一番位が高いのです。人がおめでたい時や幽世に行く時の一番の姿です。これを身に付ける時私たちは神の導きのままに、神の国へ参入することが出来ます。高天原への尊き参入です。この拝神禊に書かれた文字は全部で五三言となり五と三で和算すると八となり、弥栄の数です。表面の一五言は和算すると一と五で六。六は六根、この世です。同じく、一二言は三。禊を表わします。裏面は



教主様より御講義を賜る

一四言で和算は五。調和の数です。同じく一二言で三となります。足すと五三言。こういう世界を造るのが大和の信仰です。欲望を抑え、過ぎるものは要りません。六と三で九。九と五で一四。一四と三で一七。和算で八となります。それが秘められた数字と心に入れた下さい。この禊を行中に表、裏と付け直しをしていきます。これより、どうしたら神様の世界に近づけるかを学んでいきます。

鼻もその如く心は点々と星の如し風を起すことは人と争うことである如何なることあるも争ってはならぬ争う心あるものは愛の心の足らぬもの

神様は天地二つに分けられたのです。男女、正面と背中、暗いと明るい等々。無数の星がある訳で、その如くに心は点々と変わり、定まっていけないという事です。今、世界中で争っています。心、魂は正しい信仰をして清めていくしかありません。同七十五頁、口は一切の表われ



霊之元國大和神之宮水行場

大和の言葉Ⅱ七十一頁より、

この心を切り祓え

一で争い 二で侮り

三で高ぶり 四で怒り 五で罵り

この心を切り祓え

この心あらば

一家一國の輪はとれず

この心の少しでもあれば

幸福の二字を

抱くことは できない

我々は小さな和ではありません。大調和、三界の調和という。大和は心づくり・人づくり・国づくりと云います。それが中々出来ていません。同七十三頁、

人と争ってはならぬ上の唇は天であり下の唇は地である上の唇は火であり下の唇は水を表わす左の耳は清きを悟り右の耳は悪しきを悟る鼻もその如く心は点々と星の如し風を起すことは人と争うことである如何なることあるも争ってはならぬ争う心あるものは愛の心の足らぬもの

神様は天地二つに分けられたのです。男女、正面と背中、暗いと明るい等々。無数の星がある訳で、その如くに心は点々と変わり、定まっていけないという事です。今、世界中で争っています。心、魂は正しい信仰をして清めていくしかありません。同七十五頁、口は一切の表われ

耳で聞くこと 鼻に嗅ぐこと口で味わうこと 胸に悟ること 各々悟りしことを心に表わし一切を入れ一切を吐き出すは口であり良き悪しきを表わすも心の動きで口にて表わすものである口は尊きもので万物一切の表われである

耳で聞くこと 鼻に嗅ぐこと口で味わうこと 胸に悟ること 各々悟りしことを心に表わし一切を入れ一切を吐き出すは口であり良き悪しきを表わすも心の動きで口にて表わすものである口は尊きもので万物一切の表われである

大和では、言葉ほど尊いものはない言葉ほど恐ろしいものはないと説きます。口も鼻も耳も全て天地宇宙とつながっています。自分の心にも善悪の心があるのです。同七十七頁、

正悪を見よ

目で見ること正しかりしか正しからざるかを悟りて己が心に治めること

出来る様で出来ないのです。だから皆さんは迷うと拝んでもらったりします。人間は迷うもので、それだけ弱いのです。大和のおみちびき一三六頁、

悪の心の芽生え人間 何故殺し合う大罪を犯してしまうのかそれは一言で云うなれば感謝の心が失われるからである自分たちの生命を維持するために多くの生命を頂いておるそれを当然の如くの心が働くのであれば他の生命を犠牲にして平気な心でおるのだからそこには人間同士であつても自分の欲望のためには他の人々や他国を傷つけ痛め殺してさへもさほどの罪悪も感じられないだろう

感謝の心なきところに諸悪の根源があるのであるウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナのガザ地区等、何のために戦争をしているのでしょうか。一方的に力のある国が全て自分の物にしようとする戦いに明け暮れています。欧州国は戦いに明け暮れているのです。日本も危うい状況でしたが、日本人は大和魂は捨てませんでした。明治時代に和魂洋才と知識を学びましたが、今や逆に洋才洋魂のように日本人の魂までおかしくなりました。こんな小さな国が連合国相手に戦うのです。資源が無いのにエネルギーを止められてしまいました。アメリカ大陸に渡って行ったものは虐待されました。その歴史を知らなくてはなりません。力の無いものは泣き寝入りです。根本的に心の働きが違い、住む環境で食べる物もはなから違いました。日本人は血を忌み嫌い慎んでいました。震災が度々ありました。外国ではすぐに暴動、略奪が起きますが日本人はそんなことはしません。日本人は情が厚く律儀で誠実という、何処にも無い魂の働きを教えられずとも持っています。皆と一緒に生きていき、一たび事あれば国を家族を守る為に戦うのです。日本も天皇陛下が居なければ、朝鮮半島の様に北朝鮮だ韓国だと分けられたかもしれません。かつて沖縄がアメリカに統治されておりました。北方四島は何処の国が持つて行きましたか。ロシアです。人のものを盗って平気、約束を破って平気なのです。それでも我々の先祖は立ち上がりました。驚くべき力です。これも大和魂です。一つの体に四つの魂があるとしたら。一霊四魂。荒魂は本當の勇氣、判断をします。和魂は共存共栄、共生です。

感謝の心なきところに諸悪の根源があるのであるウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナのガザ地区等、何のために戦争をしているのでしょうか。一方的に力のある国が全て自分の物にしようとする戦いに明け暮れています。欧州国は戦いに明け暮れているのです。日本も危うい状況でしたが、日本人は大和魂は捨てませんでした。明治時代に和魂洋才と知識を学びましたが、今や逆に洋才洋魂のように日本人の魂までおかしくなりました。こんな小さな国が連合国相手に戦うのです。資源が無いのにエネルギーを止められてしまいました。アメリカ大陸に渡って行ったものは虐待されました。その歴史を知らなくてはなりません。力の無いものは泣き寝入りです。根本的に心の働きが違い、住む環境で食べる物もはなから違いました。日本人は血を忌み嫌い慎んでいました。震災が度々ありました。外国ではすぐに暴動、略奪が起きますが日本人はそんなことはしません。日本人は情が厚く律儀で誠実という、何処にも無い魂の働きを教えられずとも持っています。皆と一緒に生きていき、一たび事あれば国を家族を守る為に戦うのです。日本も天皇陛下が居なければ、朝鮮半島の様に北朝鮮だ韓国だと分けられたかもしれません。かつて沖縄がアメリカに統治されておりました。北方四島は何処の国が持つて行きましたか。ロシアです。人のものを盗って平気、約束を破って平気なのです。それでも我々の先祖は立ち上がりました。驚くべき力です。これも大和魂です。一つの体に四つの魂があるとしたら。一霊四魂。荒魂は本當の勇氣、判断をします。和魂は共存共栄、共生です。

欧米人始め異国人の多くは物主心
従といわれ、物が第一の価値感でお
金、財産、名誉、地位が生きている
人の価値となります。私たちは逆で
心主物従。心、精神、魂が主です。
今は物主の国に世界が牛耳られてい
ます。

日本は戦争で負けましたが高々十
九年でオリピック開催という、驚
くべき力を持っています。不思議な
国です。世界の奇跡と云われています。
国や先祖を愛し、つらなりてい
る神々を愛するのは当たり前ですが
その血統霊統を分断されて、そして
夫婦別姓によって総仕上げです。



立石大神顕彰碑前にて

天皇陛下の系統までも断とうとし
ているのです。何故なのか私には不
可解の極みなのです。
日本人は異国人の人たちと脳の働き
が違います。日本人は、左脳(言語
脳)が発達し、自然の音、川の音、
鳥の声などは我々には心地良いもの
です。我々は言語が優れている民族
ですから、自然の音を言葉で表現出
来ます。木洩れ日といえます。また
木の葉がひらひら、と表現し理解出
来ます。小説でも感性が素晴らしい
のです。欧米人は計算や科学的なも

のは優れています。日本語は七十五
音。英語二十六音と比較にならぬ言
語を有しています。これが霊性、魂
の能力を持っています。敬語もあり
男性女性の色々な使い方があります。



立石神社鳥居前

言葉は本当に尊いもので同じ言葉
にも色々な意味が沢山あります。

「左の脳」言語の音 子音 母音

感情の音 泣く 笑い 嘆く 甘

え 泣き声 動物 虫取り 川のせ

せらぎ 波風 邦楽 最後に計算と

あり一番上が言語です。

「右の脳」西洋楽 機械雑音。こ

ういう捉え方。我々は左脳が発達し

ており、言語の言葉です。西洋で今

左脳は言語音とあるけど、言葉、文

字も足りません。計算が外国人は優

れ、そして世界を制覇しようとする

わけです。そういった脳の違いを知

ってお付き合いをしなくてはなりま

せん。魂の働きは環境の働きで皆違

います。この国柄や人柄、自分たち

の心・精神・魂の働きをしつかりと

捉えないと、修行も進んでいきませ

ん。自分という命はどういうもので

しょう。

「行なるべし」二十頁を開いて。

行ほど尊いものはない

行ほど尊いものはない

行とは 自分の魂と肉体を清め

正しい悟りの道

切り拓くものである

そして 如何なる困難にも

決して挫けることのない

強い信念を養うものである

それ故に

行ほど尊いものはない

自分のこの体と魂、心を私たちは
しっかりと清めて磨くことです。

どんなに日本が焼け野原になつて

も、絶対に生きる、復興するとして

立ち上がる魂の働きが素晴らしいも

のなのです。大和魂は強いものだけ

でなく、情けもあります。どの国も

大和の言霊

信仰はこの世を生きていく
ための仕事だと思いなさい。

(大和神典第二之三二五言)

繁栄させようといします。台湾で大き
なダムを造つてあげて色々な事を残
して、今も感謝されています。中国
も戦後日本から大きな支援を受けて
伸びてきました。

身Ⅱ体 魂Ⅱ心・精神 この身と

魂を我々は清めなさい。それだけ

体も大事です。心だけでは足りない。身

体がなければ此の世では生きられま

せん。

命の根源を二つ代表すれば荒魂と

和魂となります。和魂の中には幸魂

と奇魂の働きがあります。幸魂と奇

魂は大國主大神様が自分の中に幸魂

と奇魂があったということ、少彦

名大神様がお帰りになつても国づく

りは大丈夫だという、そういう魂を

大國主大神様は諭されました。やは

り弱いものを持つている魂の力を使

うのが心なのです。命の力を心が如

何に使うかなのです。だから大國主

大神様は「心をつくれ 心をつくれ

魂しいをつくれ」と重ねて開教神

宣で申されるわけです。心は厄介で

もあり尊い偉大なる力です。宇宙意

識と神の意識を頂いているのがこの

心です。この世の全てを知っていま

す。神様の意識と自分の心・意識を

つないでいるものは何ですか。自分

の体や、地球の七割が水、大海原で

す。水が媒介しています。地上が出

来ました。広いだけではなく原は産

み出す力。神様の世界、高天原。

魂は天照大神様の命。この体は

地球からです。天照大神のずっと

上には、天之御主大神という宇宙

根源の力の神

様をお称えし

ており広大な

宇宙の中心で

す。その流れ

が太陽系宇宙

では天照大神

神様です。魂

の光・天津大霊は天照大神から頂

きました。皆さんが自分の体を清め

られないのでは信仰になりません。

困難や悩みは絶対に解決するとい

う強い信念を持てなければ信仰して

いるとはいえません。その姿をつく

るのが毎日の祈りであり感謝です。

色々な食べ物に日常の生活の道具

にも、しみじみ有り難いという心を

つくるのが大和の信仰です。

死んでから長い人生です。また

甦り再生復活です。幽世で幸せにな

るには神様の光のもとに行かなくて

はなりません。大和の祈りをしつかり

りして心をつくっていくのです。

一人が五人を導くという運動を展開

しています。神様に喜ばれること

をするのです。先ず一人が一人をお

祭りに導きましよう。

私は、やまとの心普及協会”を主

宰し日本中を歩きました。色々な方

々とつながりました。ここでも研修

会を受け入れました。ここで学んだ

ことを元に自分の生活があります。

一日は二十四時間しかありませんか

ら、夫々に工夫して生活の中に入れ

る知恵を使うのです。

開祖様は日常生活の中に信仰生活

を入れなさいと申されました。別々

ではありません。祈りの力、意識、

心をつくることです。

五大信条の「和心」は、日本人の

大和魂です。情けも勇気も智慧もあ

ります。その四つの力ある魂を高め

ていくのが感謝の心です。どうした

らそれが持てるのか、その智慧を授

けるのが我々教師であり、実行する

のは皆さんです。努力しないで棚ぼ

たの考え方では甘過ぎます。与えら

れた環境のもとでやるものは一所懸

命やらねばなりません。和心、そこ

には絶対にやり遂げるとい信念が

ないとすぐ怠け挫けてしまいます。

この世でどれだけ神様に奉仕をし

たか、人々が喜んでくれたかの宝を

積むということです。大和の神々は

十倍返しと申されました。大に小に

悪いことをしても十倍返しです。

善いことも十倍です。それを受け

取れるだけの正しい信仰、祈りを為

して感謝の心をつくるのです。拜ん

でいるだけでも徳を積み、更に平和

祈念串となつたら自分の身の清め

になります。自分だけの世界ではなく

して、どうぞ一人でも多くの人に、

大和という尊い神様のことを話して

下さい。この鎮魂の鈴は二つ持つと

良いのです。こうして自由に、魔を

祓うなどして、使い方を広く考えて

力を頂くことなのです。決してお飾

りにはしない下さい。本日はご苦

勞様でした。

7月行事予定表

7月1日	朔日火祥神事
7月5日	神光龍神祭
7月6日	大和神皇例年祭・埋納祭
7月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭
7月15日	三山登拝道中安全祈願祭
7月19日	三山登拝員会
7月21日	三山登拝出立
7月25日	開祖祭
7月26日	三山登拝出立
7月27日	三山登拝出立
7月28日	六根修養会

8月行事予定表

8月1日	朔日火祥神事
8月3日	三山登拝出立
8月5日	神光龍神祭
8月7日	七夕祭
8月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭
8月12日	出羽三山下山感謝奉告祭
8月15日	祖霊殿祖霊祭・年祭
8月25日	お盆花供養慰霊祭
8月28日	日蓮宗開縁特別浄霊安鎮祭
8月28日	月次祭・五講祭
8月28日	開祖祭
8月28日	六根修養会

あなたの一声が
多くの人をお救いします



大國主大神様の御手にすがり
幸せにみちびかれましよう

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましょう

大國神社例大祭 教主様御親教

皆さんおめでとございます。今日は何の日か知っていますか。昭和の日です。私は昭和二十年の六月十九日生まれで、母のお腹に居た時を合わせれば八十一歳です。昭和二十年の八月十五日に日本が戦争で負かされて八十年ですが、私も色々な勉強をさせて頂きました。

それでは一体、日本とはどんな国でしょう。今や日本人が日本人でなくなってきたております。本日も祈願を致しましたが、女系天皇容認などあり得ません。百二十六代連綿として男系を守って参りました。日本にしかないものです。何時も私たち国民を宝として幸せを願っておられます。女性天皇ではなく女系が駄目なのです。女性がご即位あそばされ結婚なされて子供さんが生まれると、その子供たちが継がれるということです。よく考えて下さい。色んな人種があります。日本という気候風土で、そして国柄を守り続けてこられたのがご皇室です。自分のことなど殆どございませぬ。女系天皇を認めてしまうと、そういう家柄に知らない国の人が入ってしまうことさえあり得るのです。

それでは本当に良いのでしょうか。私はよくないと思っております。今、国柄も人柄も変わってきて、日本人の良さがどんどん無くなっています。戦後、家族はばらばらにされ、小さな家族にされました。孤独に亡くなっている方々がどれだけいることでしょうか。昔は親子孫三世代で誰かしらが面倒を見たものです。日本の国を国家と云います。国

の家です。我々も家です。そこに住むのが家族ですが、今や家族が無くなってきたております。

この天皇家の女系問題と選択的夫婦別姓という問題があります。誰が子供の姓を選択するのですか。親ですか。兄弟姉妹の姓が違ふなんておかしなことです。この様になったら益々家族は、ばらばらになります。家庭崩壊、国も崩壊。GHQ、連合国による日本の崩壊の総仕上げです。そんなことになつてはなりません。

ウクライナも大変です。ロシアに侵攻され三年を越えました。日本も大東亜戦争が四年余り続きました。白人社会、ヨーロッパとかアメリカがどの様な政策をしましたか。鉄砲や武器を作り、弱い所を攻めて全て自分の物、植民地にしてきました。アフリカ、アジアの殆どをです。

日本は戦争には負けましたが、魂は天皇陛下が守って下さったと私は思います。

連合国軍最高司令官のダグラス・マッカーサーにお一人で会談に向かわれたのです。「私の命は如何なつてもよいから国民に食料を与えて欲しい、救って欲しい。」と。

皇室財産を担保に国民の衣食住の保証を願ひ出しました。マッカーサーは吃驚したのです。大抵は亡命します。普通の外国の偉い人方なら命乞いして逃げるところです。昭和天皇はそうではなかった。命を捨てて私たちを守って下さった。普通の国と違ふから、天皇陛下というご存在が国家の象徴として残りました。この国の真中におわします。全てにおいて中心がしつかりなくてはなりません。それも宇宙真理の一つです。我々は太陽系宇宙に住み、太陽は

その真中に居て天照大御神とお称えを致しました。

この地球は大海原と云います。私たちの肉体は地球の力、魂は太陽の力です。日本人の心は他の国の人々の心とは違います。大東亜戦争ではどれ程まで酷くやられたでしょう。日本中が焼け野原で地上げという中に原爆を二つも落とされました。科学実験です。広島、長崎と残虐非道なことをされました。

今、ウクライナとロシアが戦っています。勝手にロシアが攻め入りました。あるウクライナ女性は「自分の家に土足で入って来て占有されたら如何する。」それと同じと云っていました。日本は戦争をしたくないのにさせられたのです。戦争をしないうちにこの国を守れないから負けるのを百も承知で命を懸けたのです。

アメリカがイラクへ核兵器製造の疑いをかけて攻め入りました。しかし、何も出て来ませんでした。白人社会はそれを責めたりしませんでした。力のあるものには媚びへつらうものです。ロシアは日本と戦争をしないと約束しながら、どさくさに紛れ、北方四島を不法に占拠致しました。アメリカも原住民がいながら自分の領土にしていくという、そういうものを持っています。

日本は戦国時代があったとしても「昨日の敵は、今日の友」で、それを良しとするわけです。「人を騙すより、騙される方が良い」とも云います。かつては家には鍵も掛けませんでした。そういう素晴らしい命が無くなつてきています。だから私たちが頑張らなくてはなりません。

大和の教え、大和帰神詞に「大和は神の御心にして 大調和は世の発展の基礎なり善と悪とは元来は一体にして 調和すべきは世の姿なり」とあります。私たち大和教団は神様

の教え、宇宙真理を説く教です。太陽系宇宙がきっちり回っており、太陽が、地球がと争いませぬ。使命を一所懸命働いています。今の家庭はばらばらで破壊されている多くの家があります。

我々は善い心ばかりでなく悪い心もあり、それは一つです。その力は魂(たま)そこから良い考えで良い動きをするか、悪いかなのです。魂の力を如何に使うかが心です。

大調和に離反する念を、これ善と片寄して信ずるはこれ悪なり」

ロシアは一方的に破壊しており許されませぬ。宇宙は創造と破壊。星は何時でも壊れ、生まれます。一方的に善だと調和しないと大和は教えています。調和していれば栄えていきます。善と悪とはもとは一つで、善の方にと努力しなくてはならないのです。善と片寄って信ずるのは悪なのです。戦争はしてはいけません。自分だけが良ければではなく、それが弥栄です。心づくり・人づくり・国づくり。日本を愛する人、家族を愛する人をつくりなさい。世界の人も仲良くなるよという和心です。

大和魂は強い魂と柔らかな魂の二つを持っています。帰りの燃料無しで、死ぬ覚悟で特攻して、散華され国を守ってくれた若者が大勢おります。若くして命を絶たれた人に手を合わせなくてよいという風潮も何十年と続いております。中国、韓国の排日、反日運動があります。恨み辛みは天が裁きます。自分の命は神に通じ天なる天照大御神・太陽に通ずる命ということです。この体は土に還り別の命となります。生まれ変わって素晴らしい人の体に宿りたいものと思います。大和魂を持った何処にも無い民族の誇りを知って、子供や孫等に何かしらを伝えて下さい。今日はどうもご苦勞様でした。

幽頭界の永遠の救いと繁栄を願いて

大和帰神合祀墓合祀のご案内



大和帰神合祀墓 (R6.7.7 竣工)

開祖様は昭和四十年代頃一人のご信者のご縁にて仙台市郷六のみやぎ霊園に永代使用権を求められました。東北自動車道の宮城インターチェンジに程近き杜の都を望む緑に抱かれた静閑の地として高く評価されし霊園に五十坪程の墓地を有されております。

此度大神様よりの「我が愛子等に幽頭の永遠の安らぎと幸栄のため」に御霊等を合せ祀る墳墓を設けるがよし」との大御心を拝し奉り

かねて大神様が神伝なされし「前石塔後円墳」の墳墓を終の棲家として左記の要項にて竣工をさせて頂きました。教信奉者皆様の先祖故人、閑縁の御霊等をお祀りなされ天界地底踏破卓立の神身となり幽身となりて幽頭の永遠の幸栄を御神授賜りますようご案内申し上げます。

大和帰神合祀墓要項

一場所

みやぎ霊園(西第七区)

大和墓苑

仙台市青葉区郷六字大森二、一

一墳墓の形状

前石塔後円墳

墳墓の理想は前方後円墳の形状と伝えられておりさらにその象は天之鳥船とも秘されております。本教墳墓の形状は開教神大國主大神が開祖奥都城建立にあたり神伝されし奇麗なる象となっております。

一埋納方

全ての御遺骨分骨にての埋納また御遺骨に代りての御霊をまつて埋納させて頂きます。

詳しくは本部または担当教師にお尋ね下さい。

宗教眞光表敬参拝

名程の職員の方々にお迎えを頂き、盛大な拍手の中で入館となった。

先ず大拝殿へとご案内を頂き、上へと登壇。佐々木堯章先生の先達のもと参拝を申し上げた。

参拝後、応接室へとご案内を頂き三代教え主岡田光央先生との懇談をなされた。暫しの時間の中で宗教協力、世界情勢、世相や政治の問題等多岐に亘る話題において意見を交わされた。



三代教え主岡田光央先生と記念撮影

五月二十二日、教主様は平松千明事務総長と鏡令宏教師を伴われ、岐阜県高山市に鎮座する宗教眞光世界総本山を表敬参拝なされた。午後三時前に到着し、愛和館（あいわか）正面玄関にご案内を頂いた。その際玄関前、ロビーにて相談役の佐々木堯章先生等の幹部他、八十



岡田光央先生と懇談なされる教主様



教主様による講演会が開催された

引き続き、岡田先生からの願いを受け、教主様による講演会が開催された。司会より開会の辞の後、佐々木先生より教主様の詳細なる紹介がなされ、幹部、職員八十名程の拝聴の中でご講演をなされた。教主様のお話しは終始穏やかで幹部、職員の皆様は皆、背筋を伸ばしてメモを取りながら熱心に聞き取っておられた。改めて本教の御教えは宗教宗派を問わず全てを包含することを確認させて頂いた次第である。次に車で十分程の距離にある光記念館へと移動し、初代教え主、救い主岡田光玉師・二代教え主岡田恵珠

師を顕彰する展示等を拝観し、隣接するレストランにおいて岡田先生、佐々木先生とともに会食をさせて頂き、終始和やかな時間を過ごさせて頂いた。

三代教え主岡田光央先生、相談役の佐々木堯章先生はじめ、温かくお迎えを下された幹部、職員の皆様には心から感謝申し上げる次第です。

瑞詮寺道場 布教教座会

宗教眞光表敬参拝の翌二十三日、教主様は富山県富山市に鎮座する瑞詮寺道場に参られて、教座会を開かれた。

この日は富山在住の四名の信奉者が参加され、教主様にお会い出来ることを心待ちにされておられた。皆さん最初は緊張されている様子で固い表情であったが、教主様の穏かなお話しにて、次第に柔らかな表情に変化していった。



教主様による教座会が開催された

沖縄平和への巡礼

五月二十一日より二十三日迄、新日本宗教団体連合会による「すべてのいのちを尊ぶ世界」実現推進事業・沖縄平和への巡礼に教務総長と参加させて頂きました。今年最終戦八十という節目の年の巡礼でありました。全ての戦争犠牲者に大和教団を代表して慰霊の誠を捧げ、世界平和を祈らせて頂くべく、思いをもつて参加させて頂きました。初日は対馬丸記念館や小桜の塔を訪れ、夕食懇

教化部次長 田中道敏

教主様から直接学びを受けられるその姿からは、教主様に「お会いしたい」、「大和をもっと学びたい」との思いが、ひしひしと感じられる教座会であった。今後、瑞詮寺道場の益々の教勢発展を祈念申し上げるものである。



瑞詮寺道場にて記念撮影

親会にて結団式が行われました。対馬丸記念館にては、太平洋戦争中に起きた悲劇を学ばせて頂きました。

昭和十九年八月二十二日、学童を乗せ長崎県に向けて那覇港を出港した対馬丸でしたが、米軍の潜水艦によって撃沈され児童を中心に千四百人を超える尊い命が奪われたのでした。当時の証言や遺品、映像を通じて子供達の深い恐怖と悲しみが伝わ



ひめゆりの塔にて礼拝が捧げられた



国立沖縄戦没者墓苑にて大和の祈りが捧げられた

り、次々と奪われてゆく命を思うと言葉になりませんでした。命の尊さと平和を願う心を深めさせて頂きました。

小桜の塔にては、対馬丸船で亡くなられた多くの学童の御霊を慰める慰霊碑にて皆で祈りを捧げました。結団式・夕食懇親会では、参加された石倉寿一・新宗連理事長を始めとする皆様と懇親を深めさせて頂きました。

二日目は梅雨入りにて大雨の中、合流なされた円応教の深田充啓教主様と御令室の深田静子様を始めとする先生方と共に、読谷村の米軍上陸の地、都屋漁港、ティラの壕、チビチリガマ、第三十二郡司令部壕、首里城を巡拝させて頂きました。

壕の中で起きた集団自決は戦争末期の大混乱の中で起きた、誠に痛ましい出来事であったと思ひ知らされました。捕虜になると殺されるため自ら死を選ぶという軍の思想にて、住民同士が互の命を絶ち合う悲劇が起こったのです。「命こそ宝」という沖縄の言葉を学びました。

三日目は魂魄（こんぱく）之塔、ひめゆりの塔、平和記念公園（平和祈念資料館・国立沖縄戦没者墓苑）を巡礼申し上げ、戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典において、代表献花・献花・教団別礼拝を捧げさせて頂きました。

この沖縄の戦場で、六月二十三日第三十二軍の牛島司令官と長参謀長が自決した事により戦闘は終結したとされています。

一般住民約十万人を含め約二十数万人の御霊に、全ての戦争犠牲者の御霊に慰霊と供養、世界平和を大和教団代表として心から祈り伝えさせて頂きました。心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。